

「地域貢献に関する取組み」の事例(全140事例)

銀行名	事例名	頁
北海道	釧路市立学校施設耐震化PFI事業	1
北海道	エコノミクス甲子園地区予選大会の開催	4
青森	「企業による環境再生の森づくり」への参画	8
みちのく	みちぎんキッズスクール 夏休み親子見学会の開催	9
みちのく	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」青森大会の開催	10
みちのく	スポーツ競技(カーリング)を通じた地域貢献活動	11
岩手	高校生等向け金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection」の実施	12
岩手	低年齢層向けTV番組内金融教育ミニコーナー	13
岩手	自然保護活動	14
東北	地方自治体との連携プロジェクトの取組み	15
七十七	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」宮城大会の開催	16
七十七	東北学院大学への提供講座開設	17
七十七	体験型教育プログラム「スチューデント・シティ」の活動支援	18
荘内	地域完結型PFIへの取組み支援	19
荘内	公益信託荘内銀行ふるさと創造基金	20
荘内	スポーツ振興への取組み	21
荘内	荘銀かねやま絆の森における森づくり活動	22
山形	森林整備を主体とした環境保全活動への取組み	23
常陽	自治体との「災害時に関する協力協定」の締結	24
常陽	地域の観光振興を目的とした「常陽フォトコンテスト」の開催	25
筑波	経営相談機能強化・ビジネスマッチング	26
筑波	地方創生に関する取組み	27
足利	足尾の山への植樹活動	28
足利	キッズスクールの開催	29
足利	金融経済教育への取組み ～全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」地方大会の開催～	30
群馬	常陽銀行・足利銀行との地域連携事業「Ag'リワードフェスタ2015in宇都宮」の開催	31
群馬	社会貢献活動への取組み	32
群馬	環境問題への取組み	33
群馬	金融経済教育支援の実施	35
武蔵野	小学生向け金融教室	36
武蔵野	小学生向け学校コンサート	37
武蔵野	小学生向けサッカー教室	38
武蔵野	公益信託を通じた環境保全活動への助成	39
千葉	千葉市プレミアム商品券事業におけるデビットカードの活用	40
千葉	「ひと」の未来を育む活動	41
千葉	「環境」の未来を育む活動	42
千葉	「産業」の未来を育む活動	43
千葉興業	夏休み体験隊「サマーキッズスクール2014」の開催	44
千葉興業	～仕事と子育ての両立～「子育てお母さん応援講座」開催	47
千葉興業	千葉県安心こども基金	48
横浜	事業性評価にかかる取組み	50
横浜	地域の活性化を意識した、地元で行われるPFI事業に対する積極的な関与について	51
横浜	環境保全活動	52

銀行名	事例名	頁
横浜	次世代への取り組み	53
横浜	魅力あふれる地域づくり	55
第四	「だいしアカデミー」の開催	68
北越	地域貢献に関する取組み「北銀奨学会」	71
山梨中央	小学校低学年（1～2年生）対象の金銭教育授業の実施	72
山梨中央	職場体験学習の受入れ	73
山梨中央	エコノミクス甲子園山梨大会の開催	74
山梨中央	森林整備事業（里地里山保全事業）の実施	75
八十二	地域ブランド化による地域経済循環効果創出事業支援	76
八十二	「八十二の森」活動の実施	77
八十二	環境ボランティアの実施	78
八十二	環境教育の実施	79
八十二	地域貢献に関する取組（金融経済教育への取組）	80
北陸	北陸新幹線開業に伴う地域活性化への取り組み	81
富山	富山大学経済学部での寄附講座「銀行論」の実施	82
富山	「全店一斉ボランティア清掃活動」の実施	83
富山	「社会に学ぶ14歳の挑戦」の受け入れ	84
富山	「夢作文大募集12」の実施	85
富山	「ポエム大賞」および「ポエム教室」の実施	86
北國	金融経済教育への取組み	87
北國	子育て支援の取組み	88
北國	環境への取組み	89
福井	「ふくぎん夏休み親子銀行員体験ツアー」の開催（金融経済教育の取組み）	90
大垣共立	命名権（ネーミングライツ）取得による地域スポーツ振興への貢献	91
大垣共立	「OKBストリート」を起点とした地元商店街の活性化策の実施	93
大垣共立	「OKB森林共和国における恵みの森林づくり協定」の締結	94
大垣共立	岐阜県との「移住定住促進に関する協定」の締結	95
大垣共立	地方銀行連携「地方からの贈り物」プロジェクト	96
大垣共立	防災のための小冊子「おうちできちんとぼうさい」発行	97
十六	「第九回全国高校生金融経済クイズ選手権『エコノミクス甲子園』岐阜大会」の開催	98
十六	「夏休み親子特別企画『じゅうろくキッズフェスタ!』」の開催	99
十六	「じゅうろくプロムナードコンサート2014」の開催	100
十六	「十六銀行卓球教室 ～目指せ!オリンピック!!～」の開催	101
静岡	地方創生セミナーの開催	102
スルガ	「SURUGA ECO ACTION」の取り組み	104
清水	静岡県立大学経営情報学部 記念講演「地域金融論」開催	105
清水	三保松原植林・清掃活動	106
清水	第47回清水銀行杯フレンドリーシティ清水少年少女サッカー大会	107
三重	NPOを応援する取組み	108
三重	「夏休み!銀行ワドキ体験隊」の開催	109
百五	「百五の森」での追加植樹	110
滋賀	クラウドファンディングによる地域産業復興	112
滋賀	CSR私募債「つながり」を通じた小学校等への寄贈品贈呈	115
近畿大阪	エコノミクス甲子園地方大会事務局としての取組	116
近畿大阪	いずみの森環境ボランティアや交野市「近畿大阪銀行森づくり」等でのみどりの環境保全活動	117

銀行名	事例名	頁
近畿大阪	子ども向け金融経済教育「りそなキッズマネーアカデミー」の開催について	118
近畿大阪	『大阪をもっともっと元気にしたい！チャリティーコンサート』 関西フィルハーモニー管弦楽団とのファンレイジングコンサート共催	119
池田泉州	「事業性評価」に係る取組み	120
池田泉州	異業種マッチングによる「地域ブランド」の開発に係る取組み	121
池田泉州	「空き家・空き地対策」、「定住促進」、「三世同居・近居」への取組み～『親元近居住宅ローン』の取扱い～	122
池田泉州	三大学（京都大、大阪大、神戸大）シンポジウムの開催	123
池田泉州	若者雇用対策の推進等～『合同企業説明会』の開催～	124
池田泉州	地域の歴史・町並み・文化・芸術・スポーツ等による地域活性化	125
紀陽	「世界遺産登録応援定期預金～百舌鳥（もず）・古市（ふるいち）古墳群～」の取扱い	126
広島	金融経済教育への取組み	127
山口	社会貢献への取組み	128
阿波	地元徳島の学術や文化振興に貢献します	129
阿波	地域の活性化に取り組んでいます	130
阿波	青少年の金融教育に取り組んでいます	131
百十四	地域の清掃活動への積極的な参加	132
百十四	金融教育活動	133
百十四	「心の詩」コンサートの開催	134
百十四	「オーブマルシェ2014 in KAGAWA」を開催	135
百十四	地域の見守り活動に参加	136
百十四	観光業務従事者・タクシー乗務員を対象とした「おもてなし研修会」の開催	137
百十四	香川県立盲学校との交流会開催	138
百十四	「瀬戸内モニターガールズ」によるモニタリング研修会の開催	139
伊予	環境問題への取組み	140
伊予	金融経済教育への取組み	147
伊予	文化・スポーツ活動への取組み	151
四国	エコノミクス甲子園高知大会	152
四国	<四銀>夏休み子供教室 「お金のセミナー」	153
四国	<四銀>夏休み子供教室 「科学教室」	154
四国	環境保全への取組み	155
福岡	「空き家解体ローン」の取扱い開始	156
福岡	CSRへの取組み	157
西日本シティ	地方創生への取組み	158
西日本シティ	「アジア金融・経済フォーラム in FUKUOKA」の開催	159
西日本シティ	女性フォーラム「女性が輝く明日のために」の開催	160
西日本シティ	音楽祭「歓喜と喝采～音楽がたたく感動」の開催	161
北九州	社会貢献への取組み	162
佐賀	地域密着型金融の取組み推進～お取引先現場での実地研修等による行員の目利き力養成～	163
十八	行内B to Bによる商店街の活性化への取組み	164
十八	「明治日本の産業革命遺産」構成資産の清掃活動実施について	167
十八	「長崎がんばらんば国体2014」「長崎がんばらんば大会2014」におけるボランティア活動の実施について	168
親和	親和銀行運動部による各種スポーツ教室の開催	169
肥後	地域の若手農家との連携及び、地域観光資源のPRに対する取組事例	170
肥後	環境保全活動の実施	171
肥後	環境保全啓発活動	172

銀行名	事例名	頁
肥後	社会貢献活動	173
肥後	学生向け金融教育	174
大分	取引先の輸入仕入先開拓をサポート	175
大分	環境問題への取組み：「大分銀行の森」づくり	176
大分	文化・スポーツ活動への取組み：「べつだいウォーク」	177
大分	文化・スポーツ活動への取組み：「別府アルゲリッチ音楽祭」	178
鹿児島	環境問題（森林整備）への取組み	179
琉球	第12回 りゅうぎんキッズスクール	180

銀行名	北海道銀行
タイトル	釧路市立学校施設耐震化 PFI 事業
取組み内容	<p>【背景・経緯】 小中学校施設の耐震化工事への国庫補助金の期限は平成28年3月までとなっており期限に遅れると補助率が削減され、地公体に膨大な財務負担が発生する。北海道の小中学校の耐震化率は全国平均を大きく下回っており、早急な対応が必要とされていた。そこで当行は、地公体の首長・企画部門にヒアリングを実施し、ニーズを探っていた。</p> <p>【取組みの概要】</p> <p>1．内容 地域のインフラとしての市立小中学校 11 校の耐震化工事において、PFI 手法を活用した地域企業へのファイナンス支援。</p> <p>2．ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同企業体（JV）への受注を可能にした。 ・釧路市が延払分は債権譲渡による流動化対応としたこと。 ・地元信用金庫とジョイントアレンジ。 <p>【取組み成果】</p> <p>1．総事業費 90 億円、構成企業数 29 社は全て釧路市内業者で構成。</p> <p>2．借入人は JV 代表企業であり、流動化を活用することにより調達コスト・経営事項審査 Y 点への影響を最小限に抑制。</p> <p>3．地元信用金庫様と協調し、地域貢献・地域経済の発展に寄与。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>

News Release



平成 26 年 4 月 14 日
株式会社北海道銀行
釧路信用金庫

「釧路市立学校施設耐震化 PFI 事業（第二期）その 1・その 2」 に関する融資契約の締結について

株式会社北海道銀行（以下、北海道銀行・頭取：堰八義博）と釧路信用金庫（理事長：佐藤禎一）は、このほど釧路市が実施する「釧路市立学校施設耐震化 PFI 事業（第二期）その 1・その 2」（以下、本 PFI 事業）の事業者（共同企業体代表企業）である宮脇土建株式会社と坂野建設株式会社との間で、各々 15 億円・25 億円のシンジケートローンの契約を締結しました。

1. 「釧路市立学校施設耐震化 PFI 事業（第二期）その 1・その 2」の概要

内容	釧路市内の市立小中学校のうち 11 校（その 1 = 5 校、その 2 = 6 校）の耐震補強工事・大規模改造工事・維持管理業務。
目的	1. 耐震補強及び大規模改修を実施し、安全で安心な子どもたちの学習・生活の場確保と、災害発生時の避難施設としての役割確保。 2. 事業費の節減及び財政支出の平準化による、釧路市財政負担の軽減。
特色	共同企業体での受注を可能としており、発注者である釧路市は債権譲渡を認めることにより、事業者の資金調達円滑化を支援。
事業方式・事業類型	RO方式・サービス購入型

釧路市立学校施設耐震化 PFI 事業は、本 PFI 事業 2 本を含め合計 3 本発注されております。

2. 融資契約などの概要

	その 1	その 2
融資契約者（代表企業）	宮脇土建株式会社	坂野建設株式会社
グループ構成企業	釧路市内企業 14 社	釧路市内企業 15 社
総事業費	約 45 億円	約 55 億円
工事期間	平成 26 年 3 月～平成 28 年 10 月	同左
維持・運営期間	平成 28 年 11 月～平成 36 年 3 月	同左
融資契約額	15 億円	25 億円
融資期間	平成 26 年 3 月～平成 28 年 11 月	同左
アレンジャー	北海道銀行・釧路信用金庫 （ジョイントアレンジ）	北海道銀行・釧路信用金庫 （ジョイントアレンジ）
エージェント	北海道銀行	北海道銀行
参加金融機関	北海道銀行	北海道銀行
	釧路信用金庫	釧路信用金庫
	大地みらい信用金庫	北洋銀行
特色	工事完了時に北海道銀行が債権流動化によるリファイナンスを実施する予定です。	同左
	本件はコーポレートファイナンスであり、SPC向け融資ではありません。	同左
	釧路市と金融機関間で直接協定を締結します。	同左

News Release



3. 地域に根ざした PFI 事業

本 PFI 事業は、事業者が釧路市内の事業者により構成されたグループとなっております。これは、発注者である釧路市が工事施工に係る共同企業体での受注や、工事完成後の債権譲渡を認めた事業内容としたことから、事業者が S P C 設立に要するコスト及び事務負担から解放されると同時に、工事期間中の担保提供、工事完了後の債権流動化などのセキュリティパッケージが可能となり、効率的な資金調達が可能となった結果であります。

金融機関は釧路市内に本支店を置く地域金融機関でまとめられており、地方銀行と信用金庫のジョイントアレンジによる PFI ファイナンスは、北海道では第一号の事例となります。

北海道銀行と釧路信用金庫は道内の自治体に対し、質の高い公共サービスの提供とコスト削減に向けたご提案ならびに、道内の事業者に対し PPP・PFI（注）などの技術力が求められる事業参画のお手伝いをさせていただいております。

本 PFI 事業を通じて、地域貢献・地域経済の発展に寄与させていただくとともに、今後も両者は連携して地域社会の活性化を支援してまいります。

（注）PPP（Public Private Partnership：パブリック・プライベート・パートナーシップ）とは、行政主体による公共サービスを、行政と多様な構成主体との連携により提供していく新たな考え方。民間委託、PFI、指定管理者制度、民営化、地域協働、産学公連携等を含めた公民連携手法の総称。

PFI（Private Finance Initiative：プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う手法。

【お問い合わせ先】

(株)北海道銀行 営業推進部	(近藤)	電話番号	011-233-1069
	経営企画部 広報 CSR 室 (石田)	電話番号	011-233-1005
釧路信用金庫 審査部	(細川)	電話番号	0154-23-9026

銀行名	北海道銀行
タイトル	エコノミクス甲子園地区予選大会の開催
取組み内容	<p>【背景・経緯】</p> <p>当行は、次世代を担う高校生への金融教育活動としてクイズを楽しみながら金融・経済に関する知力を習得してもらうとともに、お金との関わり方やライフデザイン等を考えるきっかけとしてもらうことを目的として平成 20 年よりエコノミクス甲子園北海道大会の運営全般を行っていた。</p> <p>しかし、北海道は広域に亘るため、参加者は札幌市近郊地区の高校生が中心となっていた。そこで当行は、広く道内の高校生が参加しやすくなるように道内各地の信用金庫様、信用組合様とのリレーションを活用し、全国初の地区予選大会を開催した。</p> <p>【取組みの概要】</p> <p>平成 26 年上期より各地区の信用金庫様、信用組合様へ開催を呼びかけ、平成 26 年 11 月 2 日～9 日に函館市、帯広市、釧路市、旭川市、札幌市の道内 5 カ所において全国で初めての取組みとなる地区予選大会を開催した。その結果、前年（札幌市での北海道大会 1 開催のみ）を大きく上回る 28 校 74 チームの参加をいただいた。</p> <p>平成 26 年 12 月 7 日には、地区予選大会で優秀な成績を修めた 13 チームを招待しての北海道大会を開催。北海道大会の優勝チームは、全国大会でも準優勝を果たした。</p> <p>(地方大会を主催いただいた信用金庫様・信用組合様)</p> <p>旭川信用金庫様、江差信用金庫様、渡島信用金庫様、帯広信用金庫様、釧路信用金庫様、札幌信用金庫様、札幌中央信用組合様、大地みらい信用金庫様、十勝信用組合様、函館商工信用組合様、北央信用組合様、北星信用金庫様、留萌信用金庫様</p> <p>(エコノミクス甲子園北海道大会の様子)</p> 

平成 26 年 9 月 24 日

各 位

北 海 道 銀 行

第 9 回 全国高校生金融経済クイズ選手権
「エコノミクス甲子園 北海道大会 地区予選大会」の参加者募集について

北海道銀行は、旭川信用金庫様、江差信用金庫様、渡島信用金庫様、帯広信用金庫様、釧路信用金庫様、札幌信用金庫様、札幌中央信用組合様、大地みらい信用金庫様、十勝信用組合様、函館商工信用組合様、北央信用組合様、北星信用金庫様、留萌信用金庫様とともに第 9 回全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園 北海道大会」を開催いたします。

本大会は、高校生向けの金融教育活動として実施するもので、高校生の皆様にクイズを楽しみながら金融・経済に関する知力を習得していただくとともに、お金との関り方やライフデザイン等を考えるきっかけとしていただくことを目的としております。

今年は、旭川市、函館市、釧路市、札幌市、帯広市の道内 5 カ所において全国で初めての取り組みとなる地区予選大会を開催いたします。また、地区予選大会で優秀な成績を修めたチームを北海道大会へご招待いたします。なお、北海道大会に優勝し、全国大会を勝ち抜いたチームには、ニューヨーク研修旅行がプレゼントされます。

参加者の募集については下記の通りです。たくさんのお申込みをお待ちしております。

記

1. エコノミクス甲子園 北海道大会 地区予選大会 参加者募集概要

- (1) 申込資格：道内の同じ高校に通う高校生が 2 名 1 組で参加。
- (2) 申込方法：オフィシャルWEBサイト (<http://econ-koshien.com>) から申込み。
高校の所在地により次の 5 つから参加する大会を選択する。

	大会名	開催地	申込期限
	上川・宗谷・留萌・オホーツク地区予選大会	旭川市	10 月 26 日 (日)
	渡島・檜山地区予選大会	函館市	10 月 19 日 (日)
	釧路・根室地区予選大会	釧路市	10 月 26 日 (日)
	石狩・空知・後志・胆振・日高地区予選大会	札幌市	10 月 26 日 (日)
	十勝地区予選大会	帯広市	10 月 25 日 (土)

参加費無料、参加賞進呈、成績優秀者は北海道大会に進出。

出題するクイズは筆記クイズ・早押しクイズ・ボードクイズなど。

2. エコノミクス甲子園 北海道大会 地区予選大会 開催概要（敬称略）

(1) 上川・宗谷・留萌・オホーツク地区予選大会

主催	旭川信用金庫 北星信用金庫 留萌信用金庫
開催日時	平成 26 年 11 月 9 日（日）10 時 30 分～
会場	旭川信用金庫 本店 （旭川市 4 条通 8 丁目 JR 旭川駅より徒歩 10 分）
募集定員	30 チーム（60 名、定員になり次第締め切り）

(2) 渡島・檜山地区予選大会

主催	渡島信用金庫 江差信用金庫 函館商工信用組合
開催日時	平成 26 年 11 月 2 日（日）10 時 30 分～
会場	函館商工信用組合 本店 （函館市千歳町 9 番 6 号 市電「新川町」電停そば）
募集定員	30 チーム（60 名、定員になり次第締め切り）

(3) 釧路・根室地区予選大会

主催	釧路信用金庫 大地みらい信用金庫
開催日時	平成 26 年 11 月 9 日（日）10 時 30 分～
会場	釧路プリンスホテル （釧路市幸町 7 番 1 号 JR 釧路駅より徒歩 10 分）
募集定員	20 チーム（40 名、定員になり次第締め切り）

(4) 石狩・空知・後志・胆振・日高地区予選大会

主催	札幌信用金庫 北央信用組合 札幌中央信用組合
開催日時	平成 26 年 11 月 9 日（日）10 時 30 分～
会場	北海道銀行 ほしみ研修センター （札幌市手稲区星置南 4 丁目 43 番 5 号 JR ほしみ駅より徒歩 1 分）
募集定員	30 チーム（60 名、定員になり次第締め切り）

(5) 十勝地区予選大会

主催	帯広信用金庫 十勝信用組合
開催日時	平成 26 年 11 月 8 日（土）10 時 30 分～
会場	帯広信用金庫 中央支店ビル 3 階セミナールーム （帯広市西 3 条南 14 丁目 1 番地 1 JR 帯広駅より徒歩 3 分）
募集定員	20 チーム（40 名、定員になり次第締め切り）

各大会ともに共催：特定非営利活動法人金融知力普及協会、後援：北海道教育委員会

3. エコノミクス甲子園 北海道大会 開催概要

主 催	北海道銀行
共 催	特定非営利活動法人 金融知力普及協会
後 援	北海道教育委員会
開催日時	平成 26 年 12 月 7 日（日）10 時 30 分～
会 場	北海道銀行 ほしみ研修センター （札幌市手稲区星置南 4 丁目 43 番 5 号 JR ほしみ駅より徒歩 1 分） 会場までの交通費は主催者負担
参加者	地区予選大会の成績優秀者（最大 32 チーム）
その他	参加費無料、参加賞進呈、優勝者は全国大会に進出。 前年の優勝チームは札幌旭丘高校チーム「ばいなぼー」。

以上

お問い合わせ先： 北海道銀行 広報 C S R 室 大海・石田 TEL 011 - 233 - 1005

銀行名	青森銀行
タイトル	「企業による環境再生の森づくり」への参画
取組み内容	<p>1．経緯</p> <p>青森・岩手県境において行われた産業廃棄物の不法投棄事案に関し、青森県が策定した「青森・岩手県境不法投棄現場・環境再生計画」に基づく森林整備の取組みとして展開される「企業による環境再生の森づくり活動」に賛同し、森林整備事業への参画に至ったもの。</p> <p>2．取組み内容</p> <p>平成 26 年度は約 2,500 m²の土地に対し 1,500 本の植樹を実施。 平成 27 年度も同規模の植樹を実施する。</p> <p>3．成果</p> <p>青森県が策定した「青森・岩手県境不法投棄現場跡地森林整備計画」に基づき、不法投棄現場跡地への植樹による森林整備に参画することにより、不法投棄によって失われた自然環境の再生への貢献が図られた。</p> 

銀行名	みちのく銀行
タイトル	みちぎんキッズスクール 夏休み親子見学会の開催
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来を担う子どもたちに、普段訪れる機会の少ない銀行を実際に見学していただき、社会のなかで銀行が果たす役割やお金の大切さ・正しい使い方などを理解してもらうために実施した。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とし、以下のカリキュラムで銀行業務の説明や銀行内の見学などを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> - 銀行業務の説明 - 紙幣の鑑定や札勘の体験 - 銀行内の見学（地区センター・貸金庫室・役員室） - クイズ大会（早押し機使用） - 名刺交換 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度より青森市の本店で開始。平成26年度からは弘前市においても実施しており、参加者は延べ300名を超えている。保護者からも好評で、地域のイベントとして定着してきている。 <div data-bbox="472 1084 1163 1547" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="472 1556 1163 2013" data-label="Image"> </div>

銀行名	みちのく銀行
タイトル	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」青森大会の開催
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会にでる前の高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているか理解して読み解き、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」を考えてもらうきっかけとするために実施した。 <p>【取組みの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生に楽しみながら金融経済を学んでもらうためのクイズ大会における運営全般を担った。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青森大会2回目となる今回は、15校37チーム（昨年11校24チーム）が参加となるなど、高校生だけでなく、学校関係者などへも広く認知されてきている。  

銀行名	みちのく銀行
タイトル	スポーツ競技（カーリング）を通じた地域貢献活動
取組み内容	<p>【動機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カーリングの街」を標榜する青森市に本店を構え、「子どもの未来を応援する」地域金融機関として、カーリングを通じた地域貢献活動を継続しており、その一環として、青森県カーリング協会が主催し、当行が特別協賛する、みちのく銀行CUP「第3回U-18カーリング選手権大会」を開催した。 <p>【取組みの内容・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会への特別協賛などを通じて、将来、青森県出身で日本を代表するような選手の育成・強化に繋がり、カーリング競技の振興を通じた地域の活性化に貢献している。 ・また、大会会場は、当行が青森市と青森市スポーツ会館のネーミングライツ・スポンサー契約をし、スポーツ競技を通じて、『将来を担う子どもたちの夢が叶い青森から世界に羽ばたいてほしい』との思いをこめ、「みちぎんドリームスタジアム」と愛称を決めた施設でもあり、ネーミングライツ使用料で当施設内にあるカーリング場の利用期間が2ヶ月間延長されるなど、競技環境の改善にも貢献している。  

銀行名	岩手銀行
タイトル	高校生等向け金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection [®] 」の実施
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <p>(1) 当行の金融教育施策のひとつとして、株式会社新生銀行とNPO法人育て上げネットの協力のもと、高校生等向けの金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection[®]」を実施している。</p> <p>(2) このプログラムは、若年層のニート化予防を目指して、高校生などを主な対象に働くこととお金、将来について考えるきっかけの提供を目的に、ワークショップ形式で実施するもの。</p> <p>【取組内容】</p> <p>(1) プログラムの特色（「稼ぐ」編）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「お金と働き方」を考える“きっかけ”を作る 「生きていくために必要なお金」を“リアルに体験”させる 「生徒参加型体験プログラム」なので生徒が“楽しく参加”できる <p>(2) プログラムを通じて伝えたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 生きていくためにはお金が必要 自分の可能性を広げるための貯蓄も大事 将来の生活をイメージして慎重に働き方（進路）を選択 <p>【取組効果（実績）】</p> <p>(1) 2/18（火）岩手県立大槌高校 72名</p> <p>(2) 6/23（月）私立盛岡誠桜高校 42名</p> <p>(3) 7/24（木）岩手県立住田高校 30名</p> <p>(4) 8/22（金）岩手県立杜陵高校 42名</p> <p>(5) 12/10（水）岩手県立水沢商業高校 122名</p>

銀行名	岩手銀行
タイトル	低年齢層向けTV番組内金融教育ミニコーナー
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 当行の金融教育のうち低年齢層向けの施策として、子供向け地元TV番組「らどんぱ！」内でご当地ヒーロー「鉄神ガンライザー」が登場する金融教育ミニコーナーを実施している。</p> <p>【取組内容】 (1) このコーナーは、低年齢層の学童が楽しみながら学べるよう、「鉄神ガンライザー」に登場するキャラクターがお金にまつわる豆知識的なことを紹介する1分間のアニメコーナーとなっている。 (2) 番組放送 テレビ岩手 子供向け番組「らどんぱ！」 毎週日曜 朝7:00~7:30 毎週月曜（再放送）夕方3:55~4:25</p>

銀行名	岩手銀行
タイトル	自然保護活動
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 当行の「CSRの基本方針」において重点項目（キーワード）に掲げる「豊かなしぜん」を守る活動として、子どもたちと岩手銀行による自然保護活動を展開。県内各地の小中学校や岩手県緑化推進委員会、そして地元新聞社と連携して実施している。</p> <p>【取組内容】 (1) 県内各地で実施される小中学校の自然保護活動を支援していく形で当行のCSR活動を展開。自然保護の内容は、植樹のほか間伐作業や薪づくりなど、開催地の特性に合った活動であり、それらを支援しながら当行行員もボランティア等で参加する。 (2) また、自然保護活動等へ参加していただいたお礼として、学童に対し「金融教育セミナー」を実施することで、お金や銀行について学んでもらうとともに、銀行への親しみや身近さを感じてもらう。 (3) こうした一連の活動内容については、後日、地元新聞社の一面企画広告（「みどりの銀行のイーハトーヴ新聞」）として掲載しPRする。また、開催地の小中学校や営業店の協力のもと、地元マスコミやミニコミ（ケーブルテレビなど）へ取材依頼を行い、パブリシティ効果を高める。</p> <p>【取組効果】 (1) 岩手広告協会が主催する「第46回岩手広告賞」において、当行の自然保護活動等を紹介する企画広告「みどりの銀行のイーハトーヴ新聞」が、新聞広告の部における最上位の賞である「岩手広告賞」を受賞した。</p>

銀行名	東北銀行
タイトル	地方自治体との連携プロジェクトの取組み
取組み内容	<p>平成 25 年 12 月に遠野市と「農林水産業の活性化に関する業務推進協定」を締結しておりましたが、この連携プロジェクトから遠野どぶろくを調合した「遠野どぶろく飴」を商品化し、発売しております。</p> <p>「遠野 どぶろく飴」は、当行と遠野市が連携して企画し、当行のアドバイザーである(株)パイロットフィッシュ・五日市知香氏のコーディネートのもと一般社団法人遠野ふるさと公社が製品化した。一般社団法人遠野ふるさと公社が運営する遠野市内観光施設等のほか、遠野市内の菓子店においても販売しております。</p> <p>当行では、今後も地方公共団体との連携を図りながら、地域の課題やニーズに対して金融機関としての情報・ノウハウを提供し、ネットワークを活用するなどして「地域力の向上」努めてまいります。</p> 

銀行名	七十七銀行
タイトル	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」宮城大会の開催
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人生設計や生活防衛に不可欠な金融経済知識を習得する教育事業を行うことを通じて、地域への社会貢献を推進する観点から、特定非営利活動法人金融知力普及協会との共催により、全国高校生金融クイズ選手権「エコノミクス甲子園」宮城大会を開催した。宮城大会の開催は今回で6回目となる。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日：平成 26 年 12 月 14 日（日） ・ 会 場：当行本店 4 階大会議室 ・ 参加者数：県内 15 校から 39 チーム 77 名が参加 ・ 競技内容 金融経済に関する時事問題や専門分野等からクイズ問題を出題。筆記クイズと早押しクイズによる予選を行い、上位 6 チームが決勝に進出。ボードクイズによる決勝を行い、優勝チームが全国大会へ出場。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加校、参加者ともに過去最多。 ・ 参加者へのアンケート結果をみると、「参加して楽しかった」との意見が 9 割超となっていることから、大会開催についての評価は概ね良好であった。また、「大会に備えて勉強・対策した」との回答が 7 割超となっており、金融経済知識の必要性の意識付け等に一定の効果があった。

銀行名	七十七銀行
タイトル	東北学院大学への提供講座開設
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融教育を通じた社会貢献活動の一環として、東北学院大学経営学部に銀行実務をテーマとした提供講座を開講。 平成23年度より同大学での提供講座を開講しており、今回で4回目となる。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座名称：総合講座（株式会社七十七銀行提供講座） 講義内容：主に当行の主要業務の概要および地域経済における地方銀行の役割についての講義（預金業務、貸出業務、国際業務他） 開設期間：平成26年度後期（9月～1月） 講義回数：15回（1講義90分）うち当行行員講義12回、担当教授講義3回 受講者数：164名（参考：平成24年度191名、平成25年度251名） <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本講座は毎年度多数の学生が受講。また、受講学生のアンケート結果をみると、「理解できた」「興味をもてた」との意見が9割超となっており、講義内容についての評価は概ね良好であった。 平成26年度より、学生からの質問に回答する時間を30分間設定し、学生と講師との双方向での講義形式とした。学生からは毎回多くの質問があり、大学生の金融教育に一定の効果があった。

銀行名	七十七銀行
タイトル	体験型教育プログラム「スチューデント・シティ」の活動支援
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融教育を通じた社会貢献活動の観点から、仙台市が取組む体験型教育プログラム「スチューデント・シティ」に当行が協賛し、平成26年9月より活動支援を開始。 「スチューデント・シティ」とは、世界最大の経済教育団体である米ジュニア・アチーブメントの日本本部「公益財団法人ジュニア・アチーブメント日本」の教育プログラムで、東日本大震災の被災地復興を目的とした「カタルフレンド基金」の支援により新たに仙台に開設されたもの。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度活動期間：平成26年9月4日～平成27年2月5日 平成26年度活動回数：27回 活動施設：就業体験施設「仙台子ども体験プラザ - E l e m」 平成26年度参加小学校数：仙台市内小学校41校 平成26年度参加児童数：仙台市内小学5、6年生2,835名 活動内容 施設内のブースに再現された金融機関、市役所、小売業、サービス業などの店舗・事務所において、児童が従業員や顧客となり、経済や社会の仕組み、仕事の流れ、お金とは何かなどを学ぶ。なお、「スチューデント・シティ」での学習は、仙台市内の小学校5、6年生の授業カリキュラムに組み込まれている。 平成26年度は仙台市内の一部の小学校のみの参加であったが、平成27年度以降は仙台市内すべての小学校が参加する予定。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験学習によって経済やお金の流れ等を勉強することができ、参加した児童からも「大変勉強になった」等の意見が多く、小学生の金融教育に一定の効果があった。

銀行名	荘内銀行
タイトル	地域完結型 PFI への取組み支援
取組み内容	<p>鶴岡市立荘内病院医師公舎整備等事業は鶴岡市で初となる PFI 事業であった。地元の建設会社としても、PFI 方式の公共事業に参入した経験がなく、どのような対応を行うか非常に苦慮した。</p> <p>当行では鶴岡市内の建設会社を中心に PFI の勉強会を個社毎に開催し、PFI の理解を深めることとした。また、当事業に入札を検討していた事業者から PFI 事業に関する助言提供を受け、当行との間でアドバイザー契約を締結の上、入札の支援を行った。</p> <p>当該グループが落札者となり、事業契約の締結並びに事業遂行において、進捗管理等の具体的な助言を提供し、施設竣工並びに引渡しに至った。</p> <p>地元事業者にとり、PFI は大手事業者が取組むものという先入観が存在する中、当行がこれまで入札支援した事例等を説明の上、地元事業者であっても十分対応可能であることを理解し、実際に工事受注に至った。</p>

銀行名	荘内銀行
タイトル	公益信託荘内銀行ふるさと創造基金
取組み内容	<p>【動機・取組み内容】</p> <p>真に豊かで潤いのある地域社会を築くため、県内各地域の特性を活かした自主的・主体的な活動に助成金・顕彰金を贈呈する基金として平成 13 年に設立しました。「学校における教育的な活動」「地域住民と一体となった社会教育的な活動」「県内に伝わる文化的な活動」の 3 つのテーマに別け、それぞれの活動に資する取組を支援しています。</p> <p>平成 24 年には、これら 3 つのテーマに基づいた助成先の中で、豊かな地域社会の創造に向けた独自の活動を展開し、活動の継続性と発展性の面で顕著な取り組みがあった団体を顕彰するため、「荘内銀行ふるさと創造基金地域貢献大賞」を設立しました。地域貢献大賞による顕彰先を加えた合計先数は 510 先、金額は 1 億円を超えるに至っています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

銀行名	荘内銀行
タイトル	スポーツ振興への取り組み
取組み内容	<p>【取組み内容】 スポーツを通じた地域活性化に取り組んでいます。 山形県の野球振興に資するため、山形県野球場のネーミングライツスポンサーを平成 29 年 3 月まで日新製薬様と共同で取得しています。また、プロスポーツチームの応援を通じたスポーツ振興にも取り組んでいます。山形県に本拠地を構えるモンテディオ山形や楽天イーグルスのオフィシャルスポンサーとして、応援定期預金の販売や、冠協賛試合の開催、あるいは地域の小学生を対象とした教室も開催しています。</p> <p>その他、「荘内銀行頭取杯」山形県少年選抜 U-10 サッカー大会、「荘銀カップ争奪」西村山ジュニア卓球大会の開催や、マラソン大会等のスポーツイベントへの協賛にも取り組んでいます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

銀行名	荘内銀行
タイトル	荘銀かねやま絆の森における森づくり活動
取組み内容	<p>【動機・取組み内容・効果】</p> <p>平成 22 年 3 月に山形県・地元林業者の有限会社三英クラフト・当行との間で三者協定を締結して以降、「荘銀かねやま絆の森」の森づくり活動に取り組んできました。</p> <p>平成 27 年 4 月には、新たな協定締結者として金山町を迎え、第一回の森づくり活動を 5 月 30 日に実施しました。地域の小学生や住民の皆様約 50 名を含む、総勢 140 名が参加し、下草刈り、キノコの植菌、山菜料理などの地域料理体験、間伐材を利用したベンチ制作を行いました。制作したベンチは、参加いただいた小学生にプレゼントするなど、森づくり活動を通して地域との交流を図りました。今後は、更に地域の活性化を意識した新たな森づくり活動を展開していく予定です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

銀行名	山形銀行
タイトル	森林整備を主体とした環境保全活動への取り組み事例
取り組み内容	<p>1 . 自治体や地元信用金庫等との連携による森づくり活動の展開 2 . 間伐委託事業によるカーボンオフセットへの取り組み</p> <p>【経緯、動機】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形県は県土の約70%が森林（面積は都道府県で8番目）であり、県民の貴重な水源としての役割を担うとともに、県内全市町村に存在する温泉や、四季の鮮やかな自然景観など、多くの恵みをもたらしてきた。 山形県では、かねてより国の制度などを活用し、企業の森林整備活動に対する支援を行ってきたが、平成22年度から独自の支援事業として「やまがた絆の森プロジェクト」を実施している。 当行では平成22年度に山形県や地元信用金庫などとの連携により、「やまがた絆の森協定」を締結。「ぐるっと花笠の森」活動として、県内の森林整備に取り組んでいる。 また、県が創設したCO2吸収量の認証制度を活用し、当行の本店ビルが年間で排出するCO2量約1,200トンのカーボンオフセットへ向けた取り組みも同時に進めている。 <p>【取り組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絆の森協定にもとづき、県内各4地域において、年1～2回の植樹や下刈り、歩道整備、森林教育などの森づくり活動に取り組んでいる。 5年間の協定期間（平成22年度～26年度）中には、2,200名を超える役職員や地域住民が活動に参加、身近な環境保全活動として根付いている。 カーボンオフセット事業は、蔵王国定公園等における間伐委託事業を主体としており、「やまがた絆の森協定書（やまぎん蔵王国定公園の森）」を締結し、事業進行中である。 当行が120周年を迎える平成28年度に7年間の事業が完了し、カーボンオフセットが実現する見込みである。 <p>【当該取り組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絆の森協定は5年間の協定期間満了に伴い、平成27年度に期間を5年間延長しており、取り組みを継続していく。 上記環境活動への取り組みは、役職員の環境保全への意識向上はもちろん、地域住民との交流を通じ、円滑な地域社会の形成に大きく寄与している。 森づくり活動やカーボンオフセット事業を通じ、日常業務においても、事務用品の再利用や節電への取り組みなど、CO2削減や環境保全に向けた役職員の意識高揚が着実に図られている。

銀行名	常陽銀行
タイトル	自治体との「災害時に関する協力協定」の締結
取組み内容	<p>【取組み経緯】 東日本大震災の教訓をもとに、各自治体が防災対策の強化に取り組むなか、災害発生時における当行施設や設備（電気自動車等）の提供、行員の応援協力体制の整備により、地域のみなさまの安全・安心の確保に協力すべく、協定を締結したものの。 平成 26 年度は水戸市・つくば市・土浦市と締結。</p> <p>【取組み内容】 水戸市と締結した「災害時に関する協力協定」の内容 （１）災害発生時に関する当行施設、設備の提供 ・電気自動車及び充電器の提供 ・帰宅困難者等の一時避難場所、救援物資の保管場所の提供 （２）日頃の防災意識向上への協力</p> <p>つくば市と締結した「災害時に関する協力協定」の内容 （１）災害発生時に関する当行施設、設備の提供 ・電気自動車による非常用電源の提供 ・避難者を受け入れる緊急避難所としての施設の提供 ・救援物資の保管所としての施設の提供 ・電気自動車充電設備の提供 （２）日頃の防災対策推進と防災意識向上への協力 ・備蓄の確保 ・建物の耐震化、家具類の店頭・落下・移動防止及びガラスの飛散防止 ・帰宅困難者対策 ・防災知識の普及啓発 ・地域の自主防災組織等との連携 ・BCP（事業継続計画）等の作成 ・防災訓練への参加</p> <p>土浦市と締結した「災害時における支援に関する協定」の内容 ・災害対応車両及び非常用電源としての電気自動車の貸与 ・避難する際の一時集合場所としての敷地の提供及び行員の応援協力 ・避難行動要支援者に対する乗車場としての敷地の提供及び行員の応援協力 ・災害救援物資の保管所としての施設の提供 ・非常用備蓄品の提供 ・周辺地域の情報収集及び情報提供</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

銀行名	常陽銀行
タイトル	地域の観光振興を目的とした「常陽フォトコンテスト」の開催
取組み内容	<p>【取組み経緯】</p> <p>東日本大震災および原発事故の発生により、当行主要営業地盤では観光客の大幅な減少、農漁産物販売の落ち込みなど風評被害の影響を受けた。こうした状況を踏まえ、新たな地域の魅力や隠れた観光資源を発掘し、地域内外へ情報発信していくことが重要との認識のもと、地域の新たな魅力を発見することをコンセプトとしたフォトコンテストを開催した。</p> <p>【取組み結果】</p> <p>第3回茨城県央・鹿行編（平成26年8月10日～10月10日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：私が感じる地域の「新たな」魅力 ・応募総数：304作品　うち14作品が入賞 ・入賞作品については、当行営業店のロビーを使った巡回展示、当行主催の各種イベントでの掲示などを通じて、県内の観光資源の情報発信に努めている。 <p>〔最優秀作品〕「水遊び広場」</p>  <p>第4回茨城県南・県西編（平成26年11月15日～平成27年1月15日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：私が感じる地域の「新たな」魅力 ・応募総数：380作品　うち13作品が入賞 ・第3回同様に巡回展示のほか、当行の株主優待カタログへの掲載を実施。今後、行政等が作成する観光パンフレットでの活用など、情報発信の強化に努める。 <p>〔最優秀作品〕「クライマックス」</p>  <p>詳細は http://www.joyobank.co.jp/photocontest/index.html をご覧下さい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

銀行名	筑波銀行
タイトル	経営相談機能強化・ビジネスマッチング
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域経済の活性化や健全な発展に向け、地域の中小企業の経営課題に対する相談機能の強化や販路拡大等の経営支援を実施しております。 <p>【取組み内容】</p> <p>経営相談機能の強化（情報の発信／ネットワークの構築）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨城県内の景気動向などのマクロ情報について、調査情報レポートの配布 ・各種セミナーの開催（成長分野、リスク対策等） ・税理士協同組合とのネットワークの構築（情報交換会および各支部の例会等への参加） ・ミラサポの利用 ・事業承継、M & A、経営改善等の専門民間コンサルタントとの連携 <p>ビジネスマッチング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年 10 月 9 日つくば国際会議場にて第 4 回ビジネス交流商談会を開催しております。これまでの異業種交流会の路線を継承しつつ、発注企業を確保し商談中心の交流会としております。 ・通常業務の中で、銀行のネットワークを基にしたビジネスマッチング業務を実施しております。 <p>【成果（効果）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス交流会 <ul style="list-style-type: none"> 発注企業 114 社（昨年実績比 + 27 社）、受注企業 295 社（同比 + 54 社）参加者数 2,607 人（同比 + 562 人）、有効商談件数 867 件（同比 + 274 件）、成約件数 26 件（同比 17 件）となりました。 ・平成 26 年度のビジネスマッチング実績は、825 件となっております。 <p>【取組み状況に対する評価及び今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス交流商談会については、商談件数が大きく増加し、質・量とも進化し、参加企業に対する販路拡大の支援として大きな成果を上げております。 ・今後ともビジネスマッチングによる地域中小企業に対する販路拡大等のサポートを継続していきます。 ・今後の課題は、太陽光発電ビジネスマッチングに替わる新成長分野への取組みにあります。具体的には、成長分野の中心であった太陽光発電が、売電価格の下落により需要が大きく減少しましたので、環境・省エネルギー、医療・介護、食・アグリ・6次産業化、海外販路等の新成長分野への取組みを強化する必要があると認識しております。

銀行名	筑波銀行
タイトル	地方創生に関する取組み
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年 12 月 27 日に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、各自治体が「地方版総合戦略」を策定・推進するにあたり、金融機関の積極的な協力が求められており、当行では各自治体の「地方創生」への取組みに積極的に関与すべく、行内体制の整備を検討しております。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当行グループをあげて「地方創生」に貢献するため、プロジェクトチームの新設による行内推進体制の整備を検討いたしました。チーム体制、各メンバーの役割の明確化、運営に係る事項等を協議し、平成 27 年 4 月 1 日付けで「地方創生推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、行内推進体制を整備しております。 <p>【成果（効果）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地方創生推進プロジェクトチーム」には、関連会社も加わり当行グループ一体となった各自治体への支援体制を整備しております。 全営業店長を「地方創生推進担当者」とし、担当地区の各自治体の情報を収集し、各自治体の地方創生に対する取組み状況を把握しております。 各自治体の有識者会議等の委員就任要請については、積極的に協力していますが、要請内容によってはプロジェクトチームで協議しながら、その対応策を検討しております。 <p>【取組み状況に対する評価及び今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方創生に係る各自治体の取組みに積極的に関与するために、行内体制整備を協議してきましたが、「地方創生推進プロジェクトチーム」を新設し、今後はプロジェクトチームを中心として、積極的な協力を提供できる体制が整備されたものと認識しております。 人口ビジョンや地方版総合戦略策定においては、各自治体や関係機関との連携が重要であり、策定までの時間も限られているなかでの連携強化が必要と認識しております。

銀行名	足利銀行
タイトル	足尾の山への植樹活動
取組み内容	<p>NPO 法人「足尾に緑を育てる会」の協力のもと、当行新入行員と栃木県産業協議会の会員企業の新入社員と合同で、足尾の山への苗木の植樹を行っている。 平成 27 年度も 7 月 3 日に実施予定。</p> <p>平成 21 年度より当行の新入行員で実施 平成 23 年度から栃木県産業協議会の会員企業の新入社員と合同で実施</p>

銀行名	足利銀行																						
タイトル	キッズスクールの開催																						
取組み内容	<p>金融教育の一環として、地域の子どもたちに対してお金の大切さや銀行の役割を楽しく学んでいただくために、小学4年生から6年生を対象に『あしぎんキッズスクール「お金の体験学習」』を毎年開催している。</p> <p>栃木県金融広報委員会の協力による「おこづかいゲーム」や、お金に関するクイズ、銀行の仕事と役割、銀行見学などのカリキュラムを実施している。</p> <p>【カリキュラム】</p> <table border="1" data-bbox="443 667 1430 1379"> <thead> <tr> <th data-bbox="450 676 603 712">時間</th> <th data-bbox="609 676 1423 712">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="450 721 603 757">9：30～</td> <td data-bbox="609 721 1423 757">受付開始</td> </tr> <tr> <td data-bbox="450 766 603 801">10：00～</td> <td data-bbox="609 766 1423 801">開校式</td> </tr> <tr> <td data-bbox="450 810 603 846">10：10～</td> <td data-bbox="609 810 1423 846">アイスブレイクゲーム</td> </tr> <tr> <td data-bbox="450 855 603 936">10：20～</td> <td data-bbox="609 855 1423 936">おこづかいゲーム (ゲームを通じてお金の使い方を学ぶ)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="450 945 603 981">11：50～</td> <td data-bbox="609 945 1423 981">昼食</td> </tr> <tr> <td data-bbox="450 990 603 1070">12：50～</td> <td data-bbox="609 990 1423 1070">お金に関するクイズ (お金の役割・お金の歴史を学び、お金の大切さを学ぶ)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="450 1079 603 1205">13：20～</td> <td data-bbox="609 1079 1423 1205">銀行の仕事と役割 (銀行の仕事を理解して、お金の流れを学び、働くことの大切さを学ぶ)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="450 1214 603 1294">13：50～</td> <td data-bbox="609 1214 1423 1294">銀行見学 (銀行の内側を見学して、銀行の仕事を体験する)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="450 1303 603 1339">15：00～</td> <td data-bbox="609 1303 1423 1339">閉校式</td> </tr> <tr> <td data-bbox="450 1348 603 1384">15：30</td> <td data-bbox="609 1348 1423 1384">解散</td> </tr> </tbody> </table>	時間	内容	9：30～	受付開始	10：00～	開校式	10：10～	アイスブレイクゲーム	10：20～	おこづかいゲーム (ゲームを通じてお金の使い方を学ぶ)	11：50～	昼食	12：50～	お金に関するクイズ (お金の役割・お金の歴史を学び、お金の大切さを学ぶ)	13：20～	銀行の仕事と役割 (銀行の仕事を理解して、お金の流れを学び、働くことの大切さを学ぶ)	13：50～	銀行見学 (銀行の内側を見学して、銀行の仕事を体験する)	15：00～	閉校式	15：30	解散
時間	内容																						
9：30～	受付開始																						
10：00～	開校式																						
10：10～	アイスブレイクゲーム																						
10：20～	おこづかいゲーム (ゲームを通じてお金の使い方を学ぶ)																						
11：50～	昼食																						
12：50～	お金に関するクイズ (お金の役割・お金の歴史を学び、お金の大切さを学ぶ)																						
13：20～	銀行の仕事と役割 (銀行の仕事を理解して、お金の流れを学び、働くことの大切さを学ぶ)																						
13：50～	銀行見学 (銀行の内側を見学して、銀行の仕事を体験する)																						
15：00～	閉校式																						
15：30	解散																						

銀行名	足利銀行
タイトル	金融経済教育への取組み ～全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」地方大会の開催～
取組み内容	<p>・25年度より、「エコノミクス甲子園」地方大会（栃木大会）を主催者として開催しており、27年度も12月13日（日）開催予定。地元高校生が金融経済に関する筆記、早押し、書き問題などクイズを通して楽しく学べる機会を提供する。</p> <p>【参加高校生人数 25年度：9校18チーム36名、26年度：9校16チーム32名】</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	常陽銀行・足利銀行との地域連携事業「フードフェスタ 2015 in 宇都宮」の開催
取組み内容	<p>1. 連携事業の目的 北関東自動車道の開通により群馬県、栃木県、茨城県の商流・物流が活性化するなか、3行が協力して取り組むことで経済圏域の拡大を後押しし、地域企業の販路拡大を図る。特に「食」や「観光」を軸に連携強化し、地域振興や地域経済の活性化へ繋げていくために開催した。</p> <p>2. 内容 (1) 日 時 平成 27 年 6 月 4 日(木) 10:00~16:00 (2) 場 所 マロニエプラザ(宇都宮市) (3) 主 催 群馬銀行・常陽銀行・足利銀行 (4) 出展者 320 先 (5) 来場者 約 3,200 名 (6) 予約商談 185 社/470 件(1 商談 20 分) (7) その他 3 県の観光ブース設置</p> <p>3. 成果(効果) (1) 出展者アンケートの主な結果 A. 出展者の 78.8%が「非常に満足・満足」であり、高い満足度となっている。 B. 商談件数は 1 社あたり平均すると 7.4 件の商談数である。 (2) バイヤーアンケートの主な結果 A. バイヤーの 86.2%が「非常に満足・満足」であり、高い満足度となっている。 B. 商談件数は 1 社あたり平均すると 5.8 件の商談数である。 (3) 開催日当日の成果については、出展者より「ビアガーデンで商品採用が決まった。」「群馬県内の小売店で納品が決まった。」など好評の声をいただいている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>(開会セレモニー)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(会場内風景)</p> </div> </div>

銀行名	群馬銀行
タイトル	社会貢献活動への取組み
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 企業理念「地域社会の発展を常に考え行動すること、これが私たちの事業です」 「よき企業人であるためによき市民であること、これが私たちの活動の基本です」に基づき、本業を通しての地域貢献のほか、ボランティア等の社会貢献活動や文化支援活動を行っている。</p> <p>【取組み内容】</p> <p>1．地域活動への参加 （１）町内会活動、清掃活動、商工会議所活動、地域のお祭りへの参加 （２）富岡製糸場清掃活動「リレー・フォー・クリーン」への参加</p> <p>2．スポーツ振興 （１）バレーボール部による国体予選参加とVリーグへの加盟（平成27年度） （２）「ぐんぎん杯ママさんバレーボール大会」の開催 （平成25年～、これまで3回実施） （３）バレーボール部によるバレーボール教室の開催（実施累計337回）</p>  <p>（４）ぐんま県民マラソンへの協賛。行員がボランティアに多数参加 （平成26年度95名参加）</p> <p>3．芸術・文化の振興 （１）群馬交響楽団への支援 賛助会員になるとともに、定期演奏会への協賛を実施 （２）群馬の風土を記録した「新春特別番組」の制作。地元テレビ局で元日に放送。平成11年1月からこれまで17作を制作。平成27年は「上州のこども遊び」番組DVDを県教育委員会を通じて県内学校へ633枚寄贈。 （３）富岡製糸場・絹産業遺産群保護活動応援ファンド「群馬の絹遺産」の取扱い。信託報酬の一部を「富岡製糸場と絹産業遺産群」保護のために寄付。</p> <p>【取組みの効果】 （１）社会貢献活動への取り組みを通じて、地域の一市民として地域社会における役割を果たしていく。 （２）行員の社会貢献活動への意識が高まった。</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	環境問題への取組み
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 「群馬銀行環境方針」の制定（平成 21 年 5 月 1 日） 当行の環境への取組方針を明確化し、全行員の環境意識の向上を図るために制定。環境方針に基づく施策の実施や金融商品・サービスの提供を積極的に行っている。</p> <p><群馬銀行環境方針> 群馬銀行は、 環境と産業が両立する真に豊かな地域社会の実現を目指し、 ふるさとの自然環境を大切にしていきたいと考えています。 環境保全に積極的に取組み、 市民としての責任ある役割を果たしていきます。</p> <p>[環境行動基準]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．省資源、省エネルギー、リサイクル活動を推進し、環境への負荷の低減に努めます。 2．金融商品・サービスの提供などを通じて、環境保全に取組みお客さまを支援します。 3．役職員に対する環境教育を推進し、役職員の環境保全活動を支援します。 4．地域における環境保全活動を支援します。 <p>【取組み内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．当行の取組み <ol style="list-style-type: none"> (1) 商品・サービスを通じた取組み <ol style="list-style-type: none"> A．自然環境保護ファンド「尾瀬紀行」の取扱い 信託報酬の一部を公益財団法人尾瀬保護財団に寄付 （26 年度までの寄付累計約 9 百万円） B．環境配慮型私募債の取扱い。 環境に配慮した取組みを行う取引先の私募債発行手数料を優遇 C．省エネローン、マイカーローンの金利優遇 環境に配慮した住宅設備を購入する場合の住宅ローンやエコカーを購入する場合のマイカーローンの金利を優遇 (2) その他の取り組み <ol style="list-style-type: none"> A．一部店舗に太陽光発電設備を導入。また、本部等に省エネタイプの空調、照明機器を導入 B．「電気自動車用充電スタンド」1 台を平成 26 年 9 月に本店駐車場に設置 C．「クールビズ運動」の実施 D．「県有林整備パートナー事業実施協定」を群馬県と締結。 赤城山内の県有林 3.69ha を「ぐんぎんの森」と命名し、平成 24 年から整備。毎年、新入行員研修で間伐・枝打ち作業を行い、環境意識向上に努める。

2. 公益財団法人群馬銀行環境財団の取組み

平成7年に企業理念である「地域社会の発展を常に考えて行動すること」の実践活動の一環として公益財団法人群馬銀行環境財団を設立。快適で健全な環境の整備・保全を目指し、助成活動や啓発活動を実施。

(1) 助成事業

- A. 財団賞...群馬県内の環境保全に取組む団体個人を表彰し助成金(20万円)を交付。
- B. 教育賞...環境活動に取組む小中高校を表彰し、助成金を交付。

(2) 啓発事業

- A. 環境体験学習「環境探検隊」(中学生対象)の実施
平成8年から毎年2回実施。参加者累計210校、1,483名



- B. 環境体験学習「エコ・キッズ・キャンプ in 赤城山」(小学生対象)の実施
平成17年から毎年1回実施、これまで10回実施し参加者累計82校、266名
- C. 群馬県の実施する「環境にやさしい買物スタイル普及活動」に協賛し、特製マイバッグを作成し、群馬県内の本支店で無料配布を行う。

【取組みの効果】

- 1. 地域社会における環境の取組みへの支援や当行の環境問題への取組みを通じて、銀行としての社会的責任を果たしていく。
- 2. こうした取組みを通じて、行員の環境問題への意識の向上を図っていく。

銀行名	群馬銀行
タイトル	金融経済教育支援の実施
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 「よき企業人であるためによき市民であること、これが私たちの活動の基本です」という企業理念に基づき、地域の一市民として、地域社会の役割を果たすために行っている社会貢献活動の一環として「金融経済教育支援」に取り組む。</p> <p>【取組み内容】</p> <p>1. 「エコノミクス甲子園群馬大会」の主催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年より高校生を対象とした金融経済教育の場としてクイズ形式で金融の知識を学ぶ機会を提供している。 ・平成 26 年度 11 校 26 チーム（52 名）が参加  <p>2. 高校生の本店見学受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各高校で実施している「キャリア教育」の一環の職場見学の場として、本店の見学を受け入れている（平成 26 年度 4 校） ・本店営業部で窓口業務・出納業務などの見学、現金センター見学を行うとともに、銀行業務や金融の役割などをレクチャーしている。 <p>3. 小中学生の職場見学受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の小中学生の職場体験の場として、支店の職場見学を受け入れている。 <p>4. 大学における出前講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬大学、群馬県立女子大学などへ出前講座を行い、金融の仕組みなどについて講義を行っている。 <p>【取組みの効果】</p> <p>1. 「エコノミクス甲子園」では、「金融について学ぶよい機会となった」など参加者から好評を得ており、金融経済教育の場の提供という目的を果たしている。</p> <p>2. 本店見学や職場見学では、普段銀行を訪れる機会の少ない生徒たちが、窓口や現金庫の様子を興味深く見学し、銀行業務を理解する機会の提供をしている。</p>

銀行名	武蔵野銀行
タイトル	小学生向け金融教室
取組み内容	<p>地域の子どもたちに、お金の役割や銀行業務について学ぶ機会を積極的に提供しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業店での「職場見学会」・「職場体験学習」開催（随時） ・県内NPO法人による子育て支援イベント「こども 夢 未来フェスティバル」における金融教室ブース出展（25年～） ・金融教室「武蔵野銀行のお仕事体験～目指せ日本一の銀行員」開催（26年は県内11会場で開催、27年は13会場で開催予定）

銀行名	武蔵野銀行
タイトル	小学生向け学校コンサート
取組み内容	<p>プロの演奏する素晴らしい音楽に触れる機会を提供することを目的に、ヴァイオリニストの吉田恭子さんにご協力いただき、21年度より小学校の音楽室等でヴァイオリンコンサートを開催しています。26年度までに22校で約2,400名の児童を対象に開催しました。</p>

銀行名	武蔵野銀行
タイトル	小学生向けサッカー教室
取組み内容	<p>地域の子どもたちにスポーツの楽しさを理解してもらえればと、サッカーJリーグ、大宮アルディージャのコーチの方々にご協力いただき、24年度より小学生向けサッカー教室を年1回開催しています。</p>

銀行名	武蔵野銀行
タイトル	公益信託を通じた環境保全活動への助成
取組み内容	<p>「公益信託武蔵野銀行みどりの基金」は、4年7月、埼玉県内における自然環境保全及び創出に資する事業に対し活動資金を助成することにより、美しく住み良い環境づくりに貢献することを目的として創設されました。</p> <p>27年度までの助成実績は延べ206団体、総額約6,100万円となりました。</p>

銀行名	千葉銀行
タイトル	千葉市プレミアム商品券事業におけるデビットカードの活用
取組み内容	<p><経緯> 「地方創生」へ向けた自治体との連携施策として、千葉市プレミアム商品券（愛称：ちば得商品券）の一部で当行の「ちばぎんスーパーカード<デビット>」（以下、「デビットカード」）を活用したスキームを提案し、社会実験として採用された。</p> <p><取組内容> 【スキーム概要】 事前に所定の申込み手続きを済ませておくと、期間中、対象店舗での買い物にデビットカードを利用するだけで後日プレミアム分がキャッシュバックされる仕組み。</p> <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デビットカードは15歳以上（中学生を除く）であれば申込みができることから、クレジットカードよりも幅広い層が対象になる。 ・インターネットで24時間利用申込みができることから、共働き世帯やサラリーマンなどの勤労者の購入機会が大幅に広がるのが期待できる。 ・利用者は金額の大小を問わず、プレミアム商品券を利用することができる。（紙の商品券では1枚500円など金額が決まっている） ・地元商店（対象店舗）にとっても商品券の換金負担が発生しないなどのメリットがある。 ・千葉市はカード履歴から利用状況を精緻に把握することが可能。 ・偽造や転売などの不正利用を防ぐことができる。 <p><効果> ・プレミアム商品券にデビットカードを活用することで、利用者の裾野拡大、利便性向上を図り、地域の消費を喚起することで、地域活性化につながる。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>

銀行名	千葉銀行		
タイトル	「ひと」の未来を育む活動		
取組み内容	名称	取組み時期	内容
	ちばぎんハートフル福祉基金	平成 21 年～ 継続中	千葉県内で社会福祉活動を行う団体等に対して、資金面での支援を行っています。 これまで計 63 先に総額約 33 百万円の助成を実施しました。
	ちばぎんひまわりコンサート	平成元年～ 継続中	地域のお客さまと音楽をつうじてふれあうことを目的として、さまざまなジャンルのコンサートをお届けしています。 店頭やHPで観客を募集し、取引の有無にかかわらず無料でご招待しています。
	ちばぎんひまわり寄席	平成 25 年～ 継続中	笑いで地域を元気にしたい、という思いを込めて、著名な落語家などによる寄席を開催しています。店頭やHPで観客を募集し、取引の有無にかかわらず無料でご招待しています。
	ちばぎんカップ	平成 7 年～ 継続中 (平成 26 年開催なし)	地域スポーツ振興の観点から、千葉県内に拠点を置くプロサッカーチームのプレシーズンマッチに特別協賛しています。 あわせて、開催地の自治体をつうじて、障害者の方々を無料でご招待しています。
	ちばぎんひまわりギャラリー	平成 26 年～ 継続中	有名作家による「企画展」、千葉にゆかりのある作家による「公募展」を開催し、無料で解放しています。オープンからこれまでに 2 万人以上のお客さまにご来場いただきました。
	ちばぎんフィルムライブラリー	昭和 38 年～ 継続中	幼稚園や子供会、福祉施設など地域の団体に、幅広いジャンルのフィルムや映写機材を当行の本・支店窓口を通じて無料でお貸し出ししています。
	幼稚園へのオーケストラ派遣	平成 25 年～ 継続中	子どもたちに「本物」の文化に触れてもらうため、「公益財団法人ちばぎんみらい財団」をつうじて、県内の幼稚園にミニオーケストラを派遣しています。
	エコノミクス甲子園	平成 21 年～ 継続中	県内高校生への金融知力普及を目的として、金融や経済に関するクイズ大会を千葉興業銀行と共同で開催しています。
	寄付講座	平成 19 年～ 継続中	地元の千葉大学にて、野村證券と共同で寄付講座を実施しています。職員が教壇に立ち、銀行の役割や地元経済の動向などに関する講義を行います。
	職場体験	(開始時期不明) 継続中	地域の小中高生を対象に、本支店で、銀行業務の解説をはじめ、店内・ATMコーナーの見学やビジネスマナー体験等を実施しています。
ちばぎん金融資料室	平成 25 年～ 継続中	当行と前身銀行を中心とした金融史や、発展を遂げてきた千葉県の姿を展示・紹介するとともに、お子さま連れにも楽しんでいただけるよう、お金について楽しく学べるサイネージなどを設置しています。	

銀行名	千葉銀行		
タイトル	「環境」の未来を育む活動		
取組み内容	名称	取組み時期	内容
	ちばぎんの森	平成 15 年～ 継続中	温暖化対策や防災対策の観点から、県内 2 カ所（長生郡白子町、山武郡蓮沼町）で、育樹活動を行っています。また、ボランティアによる下草刈りを定期的実施しています。
	省エネ・エコセミナー	平成 24 年～ 継続中	中小企業の経営者や担当者に対して「省エネ」を切り口とした情報提供を行い、お客さまの経営体質改善と環境問題への主体的な取り組みを支援することを目的として開催しています。来場者に対して省エネ診断業者等との個別相談の場も提供しています。
	エコカーの導入	平成 23 年～ 継続中	ハイブリッドカーや電気自動車など、排出ガスの少ない車を営業車として多く活用しています。直近では、水素を燃料とする新型燃料電池自動車「MIRAI」を県内でいち早く導入しました。
	21 世紀金融行動原則への署名	平成 23 年	「地球の未来を憂い、持続可能な社会の形成のために必要な責任と役割を果たしたい」という本原則の趣旨に賛同し、平成 23 年より、署名・参加しています。
	節電活動	平成 18 年～ 継続中	クールビズ・ウォームビズの実施、空調の設定温度の見直しや事務機器の使用を控えるなどの活動に取り組んでいます。 平成 22 年よりライトダウンキャンペーンに参加、平成 26 年より「Fun to Share」に署名しています。
	クリーンウォーク	平成 15 年～ 継続中	当行役職員・OB で構成するボランティア組織「V ネットクラブ」を中心として、地域の環境美化・保全を目的に、県内各地で定期的に清掃活動に取り組んでいます。

銀行名	千葉銀行		
タイトル	「産業」の未来を育む活動		
取組み内容	名称	取組み時期	内容
	ひまわりベンチャー育成基金	平成 10 年～ 継続中	千葉県経済の健全な発展と活性化のため、千葉県内のベンチャー企業に対する支援、県内の経済産業に関する調査研究や情報の提供を行っています。
	ちばぎん・研究開発助成制度	平成 24 年～ 継続中	地元の千葉大学、千葉工業大学と共同で研究開発を行う中小企業を対象に、その費用の一部を助成しています。
	ちばぎん・学生版ビジネスアイデアコンテスト	平成 24 年～ 継続中	学生の起業家志向を育てるため、地域活性化につながるビジネスモデルを募集しています。そのうち、特に優れた事業には表彰を行っており、表彰された学生には起業に向けたサポートなども行っています
	ちばぎんマルシェ	平成 23 年～ 継続中	地元自治体と協力し、農産品販売の「場」を提供することで、県内の農業生産者、食品加工業者を応援しています。
	中小企業従業員の海外視察派遣事業	平成 25 年～ 継続中	国際的な感覚を養っていただくため、「公益財団法人ちばぎんみらい財団」をつうじて、中小企業従業員の方々の海外視察を支援しています。

銀行名	千葉興業銀行
タイトル	夏休み体験隊「サマーキッズスクール2014」の開催
取組み内容	<p>次世代育成支援を目的に、平成19年より実施している金融教育・しごと体験イベントで、平成26年で8回目の開催となります。</p> <p>県内在住の小学校5・6年生30名が参加しました。また当行でのインターンシップに参加している大学生が、カリキュラムの一環として協力しました。</p> <p>当日は、千葉商科大学大学院教授 伊藤宏一先生を講師に「お金って何？」をテーマとして、お金の意味や使い道などについて学習し、続いてQVCマリーンフィールドにて、当日のマリーンズ戦プログラムを大学生のお兄さん・お姉さんと一緒に販売する「働く」体験(働いてお金を稼ぐ)をすることで、仕事により得た大切なお金に関する理解を深めていただきました。</p>

サマーキッズスクール2014

今年も子どもたちのための“お金”に関する体験学習講座 夏休み体験隊「サマーキッズスクール2014」を開催します。みなさん奮ってご応募ください。

サマーキッズスクールの内容

1. お金について学ぼう！

子どもたちに対する金融教育の分野で豊富な経験を持つ 伊藤宏一先生（千葉商科大学人間社会学部教授）から“お金”について「学び」ます。

2. 体験しよう！

QVC マリンフィールド内で、当日の試合プログラムを大学生のお兄さんお姉さんと一緒に販売し「しごと」（働いてお金を稼ぐ）を体験します。

3. 使い方を考えてみよう！

しごとにより得た“お金”の「使い方」を伊藤先生と一緒に考えます。

《サマーキッズスクール・応募要領》

- 【開催日時】 平成26年8月20日（水）
開始時刻 14:00 解散予定時刻 17:00 頃
（プログラムの内容により変更となる場合があります）
- 【開催場所】 QVC マリンフィールド
- 【募集人数】 児童 30名程度
当日は保護者の方1名の付き添いをお願いいたします。
（スクールへの同伴はできませんので予めご了承ください）
- 【特典】 スクール終了後、当日の観戦チケットをプレゼント
- 【参加費】 傷害保険料として、100円をご負担いただきます
（往復交通費等は各自のご負担となります）
- 【応募資格】 千葉県内に居住、または千葉県内の学校に通う小学校
5年生・6年生の児童
（昨年本スクールに参加された児童は応募対象外となります）

「サマーキッズスクール 2014」応募方法

往復はがきで下記事務局宛てご応募ください。

お子さまお一人につき1回のご応募とさせていただきます。

はがきの裏面に、以下の事項をご記入ください。

- ① 参加される児童のお名前（ふりがなを付けてください）と性別、学年
- ② 付き添いされる保護者の方のお名前と続柄
- ③ ご住所、郵便番号、付き添いの方の携帯電話番号

事務局（応募先）

〒261-0001 千葉市美浜区幸町2-1-2

千葉興業銀行 お客さまサービス部内

サマーキッズスクール 2014事務局 行

(TEL. 043-243-2111)

応募締切

平成26年7月18日（金）の消印まで有効

当落の結果

抽選の結果は7月25日（金）までに往復はがき返信にて回答いたします。

ご当選手続き

ご当選された方には、手続き書類一式をご送付いたします。

この書類に含まれている申込書等を期限内にご返送いただけた方が、最終的に、
スクールへ参加することのできる受講生となります。

期限内にお申し込みがない場合、または期限を過ぎた場合は、当選無効となり次点の方が当選となりますのでご承知おきください。

★個人情報の取扱いについて

ご記入いただきました個人情報は、本スクールの運営目的以外には使用いたしません。

なお、個人情報は当行において適切に保管管理いたします。

主催 千葉興業銀行

協力 千葉ロッテマリーンズ

後援 千葉市

千葉県金融広報委員会



銀行名	千葉興業銀行
タイトル	～仕事と子育ての両立～「子育てお母さん応援講座」開催
取組み内容	<p>千葉県が推進する「女性の再就職支援」事業の中の一部講座を当行が担当し、再就職を目指す県内の女性を対象に開催いたしました。</p> <p>「職場見学」や「従業員との懇談」等を通して、職業理解の機会を提供し、仕事と子育ての両立を目指す県内の女性の再就職を応援しております。</p>

銀行名	千葉興業銀行
タイトル	千葉県安心こども基金
取組み内容	<p>当行とメットライフ生命保険は、平成 24 年度から開始した共同社会貢献プログラムの第 5 期寄付金を「千葉県安心こども基金」に贈呈いたしました。</p> <p>当行とメットライフ生命保険は、千葉県が設置した「千葉県安心こども基金」に共同で寄付を行うことにより千葉県の子育て家庭を応援します。県内の金融機関として、また生命保険会社として初めての取組みとなります。</p> <p>本寄付金は、「千葉県安心こども基金」を通じて千葉県が行う様々な子育て支援施策に活用されます。なお、本活動は、千葉県が推進する企業参画型子育て支援事業(「チーバくんを活用した子育て応援事業」)に対する協同事業の一つとして承認されております。</p>

平成26年12月19日

株式会社 千葉興業銀行

メットライフ生命保険株式会社

共同ニュースリリース

株式会社千葉興業銀行とメットライフ生命保険株式会社による共同社会貢献プログラム
第5期寄付金の贈呈について

株式会社千葉興業銀行（頭取 青柳 俊一、以下千葉興業銀行）と、メットライフ生命保険株式会社（代表執行役 社長 サシン・N・シャー、以下メットライフ生命）は、2012年に開始した共同社会貢献プログラムの第5期寄付金を「千葉県安心こども基金」に贈呈いたしました。

本寄付金は、「千葉県安心こども基金」を通じて千葉県が行う様々な子育て支援施策に活用されます。

なお、本活動は、千葉県が推進する企業参画型子育て支援事業（「チーバくんを活用した子育て応援事業」）に対する協賛事業（※）の一つとして承認されております。

（※）事業者が千葉県に対する子育て応援のための協賛金の寄付や、県の子育て応援に関する広報のサポート等

記

1. 第5期寄付金の贈呈について

- (1) 贈呈者：千葉興業銀行、メットライフ生命
- (2) 贈呈先：千葉県安心こども基金
- (3) 贈呈金額：62万1,000円（千葉興業銀行 31万500円、メットライフ生命 31万500円）

2. 共同社会貢献プログラムの目的

次代の担い手となる子どもたちの健やかな成長と子育て家庭の支援を目的としております。

地域に根ざして事業を行い、地域社会の活性化と持続可能性を高めることを目指す千葉興業銀行と、日本初の外資系生命保険会社として保険を通じてお客様の人生に寄り添ってきたメットライフ生命は、本業におけるお客さまの安心のための基盤づくりのサポートに加え、それぞれの理念に基づいた社会貢献活動に積極的に取り組んでおります。本取り組みは、次世代の担い手となる子どもたちの支援という観点で同じ志を持つ2社が連携し、千葉興業銀行の地域社会である千葉県に継続的に寄付を行うことで、千葉県の子育て家庭を応援する社会貢献活動です。

3. 共同社会貢献プログラムの概要

千葉興業銀行で取り扱っているメットライフ生命の一時払保険商品の6か月間毎（上期：4月～9月、下期：10月～3月）の販売件数に500円を乗じた金額を、両社それぞれが寄付します。第5期寄付金は平成26年4月～平成26年9月分となります。今後も年に2回、継続して寄付を行ってまいります。

4. 「チーバくんを活用した子育て応援事業」について

千葉県が推進する企業参画型子育て支援事業の一つで、千葉県から承認を受けた協賛事業者は、千葉県に対する子育て応援のための協賛金の寄付や、県の子育て応援に関する広報のサポート等を行います。千葉興業銀行とメットライフ生命はそれぞれ、金融機関として、また生命保険会社として初めて協賛事業者として承認されております。



※寄付金は千葉興業銀行とメットライフ生命が拠出するものであり、お客さまの負担はございません。

※千葉興業銀行で現在取り扱っているメットライフ生命の一時払い保険商品（平成26年9月30日現在）

定額個人年金保険「三大陸」、一時払終身保険「ビーウィズユー」「サニーガーデン」、一時払終身医療保険「プライムロード」

以上

本件に関するお問合せ

株式会社 千葉興業銀行

経営企画部 弓家 TEL (043)243-2111

メットライフ生命保険株式会社

49 / 180 広報部 赤石、宮田 TEL (03)6658-2295